

# 大谷スカウト通信

2018 秋



大谷スカウト連合協議会

## 大谷スカウトのパビリオンを開設



### 17th NIPPON SCOUT JAMBOREE

平成30（2018）年8月4日～10日  
石川・珠洲 りふれっしゅ村鉢ヶ崎



8月4日（土）から8月10日（金）までの7日間にわたって、第17回日本スカウトジャンボリーが石川県珠洲市りふれっしゅ村鉢ヶ崎で開催されました。珠洲市での開催は、第14回大会に続く12年ぶり2度目であり、全国から13,400人が参加して、酷暑をものともしないスカウトたちの熱い大会となりました。

8月5日（日）午前から、ワクワク夢ランド内に日頃からスカウトたちの信仰奨励に深い関わりを持つ各教宗派のパビリオンが設営され、翌6日から9日までの4日間にわたって仏教系9教宗派に神道系4教団キリスト教系2教団が加わって信仰奨励エリアにパビリオンが開設されました。

各教宗派では、4日間にわたるブース運営にスタッフを配置してブースを訪れるスカウトたちや見学者に、各教宗派の教義や宗祖のことを中心に紹介するブース運営を行いました。

私たち大谷派は、訪れたスカウトたちに誕生仏を安置した花御堂でお釈迦様のご誕生をお祝いする灌仏（かんぶつ）をしていただいた後、お内仏をしつらえたテント内でお釈迦様や宗祖親鸞聖人を紙芝居やご法話を介して語り。お焼香の意義や作法を体験していただきました。（延べ522人）

ジャンボリーの会場となった珠洲市は、圧倒的に当派のご門徒さんが多く、飯田小学校から見学に来てブースを訪れた小学生が記念品のテッシューを見て「あかほんくんだ！」と叫んだ時は、スタッフ一同能登半島の最先端にも届けられている宗祖の教えを伝えてきた人々のご苦労と教えの深さに只々嬉しく思ったことです。

また、会場に隣接する当派のご寺院様をはじめ珠洲の皆様には、見学団の宿泊やブース運営に、余りある手厚いご支援をいただきました。さらに、能登教務所長をはじめ所員の方々にもお世話になりました。ご協力をいただいた全ての皆様に誌上を借りて感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

# 17NSJ 大谷スカウトのつどい

大会第4日目の8月7日午前11時から信仰奨励エリア（グラウンドゴルフ場）において、当派主催の「大谷スカウトのつどい」を開催。

先ず、参加者全員で「真宗宗歌」を斎唱。大谷スカウト連合協議会井上法英委員長が「開会」を宣言。続いて、岡崎教区岡崎第3団の竹尾紘弥さんと岩永美憂さんが「供灯・供華」を行いました。

草野龍子参務が導師を勤め焼香の後、総礼・合掌のまま三帰依の調声があり、参加した大谷スカウト約1,200人が導師に続いて「三帰依」(パーリ文)を復唱しました。

本つどいを主催する真宗大谷派を代表して草野参務の「挨拶」に続いて、能登教区教化本部長大窪祐宣氏の「法話」があり、篠原享栄能登教務所長からも「祝辞」をいただきました。

参加者を代表し東京教区堀秀慈さんと大阪教区巨津祐子さんが「大谷スカウトとは」を朗読。北秀継副委員長が「閉会」を宣言。炎天下にもかかわらず、参加者全員で「恩徳讃」「スカウト大谷」を唱和。最後に井垣光弘常任委員の発声で「弥栄」を三唱してつどいを終了しました。

つどいに参加してくれた皆さん本当にありがとうございました。



## Jamboree と World Scouting

井上 法英

[Jamboree] ジャンボリー。語感がいい。その響きがいい。この言葉を聞くだけでワクワクドキドキ心が躍ります。このジャンボリーという語がはじめて用いられたのは、1920 年の第 1 回国際ジャンボリー（第 3 回から世界ジャンボリーと呼ばれる）の時、ボーイスカウトの創始者ベーデン・パウエル（B-P）の提唱によるものです。

『スカウト運動』E·E·レイノルズ著、によれば「1917 年にスカウティング発足 10 周年を記念して、何らかの形で祝典を行いたい希望があったが、大戦が長びいて実現できなかった。B-P は持ち前の魅力的な名称をつける眼識の鋭さから「ジャンボリー」という名称を提唱した。彼はこの言葉をどこで最初に聞いたのか覚えていなかったが、ともかく彼の記憶にこびりついていた。なぜ、スカウトの集まりをジャンボリーと呼ぶのか。その理由をたずねられた時、彼は「君だったら、これをどう呼ぶのかね」と答えた。後に彼の記したところによれば、この語の起りについて各人各様の意見がでているが、その起源は何であろうと、この年（1920 年）以後からは、ほとんどの人にとって、それは少年の集う最大の集まりを意味しよう。「ジャンボリー」といえば、つばの広い帽子をかぶり、快活に笑う一働き者のシャツと半ズボン、杖、スカーフで活動しやすい装備をした一少年たちの歓喜に満ちた、元気はつらつたる集まりということになる。これぞジャンボリーなのである。と」正に今そのようになっています。

現在、どんな辞書にも[ジャンボリー]ボーイスカウトの大会との記述があります。手持ちの辞書を開いて確認してみてください。

ちなみに、手元にある『広辞苑』第 7 版を開い

て見みれば、ジャンボリー[Jamboree アメリカ]（どんちゃん騒ぎの意）ボーイスカウトの大会。キャンピング、作業・競技、キャンプファイヤーなどの催しを行う。とあります。語源がアメリカにあるとすれば、スカウティングの創設期に B-P と交流のあったアメリカ先住民の文化にも詳しきつた、アーネスト・T・シートンから伝え聞いていたものと推察されます。

とまれ、前回までは「日本ジャンボリー」の名称でした。今回は「第 17 回日本スカウトジャンボリー」と呼称することになりましたが、1920 年にボーイスカウトが使い始めて全世界に広がった用語であること。ジャンボリーといえば本来、ボーイスカウトの集まりを称する意味であることは知っておくべきことでしょう。

スカウティングが国際性・世界性をもつようになったのが、この 1920 年です。日本が連盟組織を創り、国際登録をしたのは 1922 年です。（来る 2022 年に日本連盟創立 100 周年を記念する第 18 回日本スカウトジャンボリーの開催が決定している。）そうしたことから、ややもすると日本の指導者は、この運動がそのはじめから国際性、世界性をもっていたかの如く考えやすいが、それはこの運動の発展歴史を知らないことからくる誤りであるとの指摘がある。

ボア戦争による国際的地位のゆるぎ、1901 年のビクトリア女王の死去によって栄華を誇ったビクトリア時代の終えんといった低落した雰囲気を危機感のなかで大英帝国の将来に不安がつのっていた頃、B-P は青少年の訓育、教育方法としてスカウティングを着想したのでした。スカウティングの発足当初は英国のための極めて国家主義的色彩の濃い憂国運動とでもいうものだったのです。それがまたたく間に海外にまで広まったのです。

スカウティング創立 10 周年の記念大会の企画は当初英国内の大会の予定でしたが、B-P は世界中のスカウトが集まることを希望した。それに対して多くの異論があったという。第 1 次大戦（1914～1918）が終ったばかりのこの時期に「国際親善」

に「国際親善」の考えはあまり理想的すぎる、時期尚早というのが反対理由であったが、B-P はそれを押し切った。

1920 年 7 月 31 日～8 月 7 日。8 日間ロンドン、オリンピア（屋根付き円形競技場）で第 1 回国際ジャンボリー開催。世界の 21ヶ国と英連邦 12 の地域から 6,000 名のスカウトが集まった。（日本から小柴博、下田豊松の指導者とリチャード鈴木少年の 3 名が個人参加した。）スカウトたちは連日快活にプログラムを楽しみ国際兄弟愛の交歓のなかに時を忘れて過したという。

再び『スカウト運動』から「ジャンボリーは、周到に計画したけれども、これほどまでに国際的な兄弟愛を強力に高度に展開できようとは予期していなかった。（中略）われわれ参加者のうちの一人として、現代の不安と疑惑の時代に、各国の大人たちや青少年が世界平和のため一つの共通の理想を胸に抱いて、相互理解と平和な兄弟愛に結ばれた兄弟として集いあつたことは、期待と希望に満ちた将来を約束するものと感じずにはおれないとあります。

スカウティングの様相が国際主義から脱皮して国際連帯による世界団体へと変った節目の出来事です。1920 年にスカウティングは生まれ変わり、World Scouting 世界のスカウティングという思想が生まれたのです。

「ジャンボリーに先立って第 1 回国際ボーイスカウト会議が開かれた。この会議では、総会を 2 年おきに開くこと、その間の重要事項を扱う委員会を選出すること、国際事務局を設置することが決定された。こうして”青少年の国際連盟”（注：1918. 1 ウィルソン米大統領、14ヶ条の平和再建構想発表、1919. 1 パリ講話会議で国際連盟の設立を決定。1920. 1 国際連盟発足という流れの中での表現）の組織固めが行われた。この時点で世界のボーイスカウト人口は 101 万 9,205 人であったと報告されている。」（『ボーイスカウト 20 世紀青少年運動の原型』一田中治彦著、中央公論社刊）

そして、1924 年デンマークで第 2 回国際ジャンボリーと第 3 回国際会議が開かれた。その会議に於いて、スカウティングは国際的なものであるとともにユニバーサルな運動であると決議して宣言文を出した。いわゆる“コペンハーゲン宣言”です。この宣言はスカウティングの新しい性格をはっきりとさせたもので、その意味する重要な点は、スカウティングが平等無差別で、どんな宗教に対しても門戸を開いたことです。元来、キリスト教から生まれたスカウティングだったものをユニバーサルにした点で大きな展開が生まれたのです。

World Scouting という思想によって世界スカウト兄弟（World Brotherhood）という教育が世界中で展開されているのです。入隊式で”ちかい”を立てたスカウトに隊長は必ず「あなたは、これによって世界のスカウトの一員になりました。」と伝えるのです。4 年毎のジャンボリーはその実践の場です。ここでは訓練の競技会がその目的ではなく、国際親善、相互理解、平和友好、提携前進がねらいです。いわばヒューマニズムの教育の場であり、スカウト教育の特性のひとつです。

ジャンボリー期間の中間日には、全ての活動プログラムを休止して宗教儀礼の日が設定されます。ジャンボリーの核心です。この日は縁あってスカウトとしてあるひとり一人が、それぞれの信仰に基づいて、胸に手を置いてスカウトの”おきて”の誠実かつ真摯な実践を自己に問うのです。

「スカウティングとは自分を取り巻く自然を觀察し、宇宙を感覚することによって自己を探求し、自分自身を育て、一生にわたって明晰なる眼を向けてゆかんとする人間を育てる教育であります。そして、それは私たちがこの世に生を受け今ここにいるという、実にかぎりのない無量の時空の原点に立っているのです。生まれた意義と生きる喜びを見出そうとして生きることです。その一点が明らかになるなら、必然として報恩感謝による生き方ができます。」と、かつてある先輩が残してくださった言葉です。

## 第50回 東京教区仏教章講習会

2018年8月26~28日 同朋会館

北第5団 品田 千絵保（東京教区）

今年も東京教区の仏教章講習会を行いました。4月から毎月1回、9月までの半年間で様々な講義や座談を行い、夏休みを利用して同朋会館で本山奉仕研修を行いました。スカウトは、初めて体験する研修を楽しみにしていたのですが、今年はそれにもまして、参加指導者が楽しみにしていたことがあります。

昨年は、和敬堂と詰所を使い研修をしましたが、今年は同朋会館の工事も終わりいよいよきれいになった会館での研修になるからです。

入り口は、和敬堂からです。和敬堂と同朋会館は中の渡り廊下でつながっています。エレベーターもあり、階段の上り下りや大きな重たい荷物を運ぶ際にはとても便利になりました。

部屋は以前のように広い部屋ではなく、こじんまりしていますが、個人用のロッカーがあり、荷物や洋服をきちんと片づけられます。

少し奥行きがなく、スカウトの大きなりュックは飛び出してしまうのですが…。部屋も2部屋つなげることが出来、全体でのお話や班別での座談など、状況に応じて活用出来ました。スカ



ウトの1番のお気に入りは「交流コーナー」でした。今まででは、食堂でお茶を用意し部屋に運び、それぞれ

が部屋で飲んでいましたが、新しい会館はお茶のコーナーがあり、コーヒー・お茶やお菓子が



用意されていて休憩時間はそこで皆さんくつろぐ素敵な空間になっていました。子ども奉仕団の参加者たちともその場を通じて仲良くなれました。あらゆる年齢層が利用できるコーナーとなっていました。

さて、肝心の奉仕研修の内容ですが、毎回教導の先生と補導さんに色々と指導をいただきます。今回は、2班体制だったので、補導さん2名と補導研修の方が1名。今回の教導の先生は9年前にも一度ご指導いただいた方で毎年研修に来ていると、何度もお世話になる補導さんもいらっしゃって、再会でそのご縁を喜びます。

今回の先生も、高校生スカウトを相手に「日大アメフト部」の事件を取り上げて、参加者の年齢にも近い大学生の心や置かれた状況などを考えました。また、家に仏壇のないスカウトが多い中、お内仏のお給仕は色々なことを楽しく学び、28日の辛い正座にも耐え、清掃奉仕では御影堂門に上がり雑巾かけレースも行いました。



参加スカウト10名。本山研修は9名のスカウトが参加。1名は学校の都合で名訓に参加予定。奉仕スタッフは11名。本山研修に同行したスタッフは5名。この奉仕に参加したスカウトは、早く仏教章が届くのを首を長くして待っています。50回も続けてきたこの講習会を途切れさせること無く今後も続けていくことが我々指導者の責務であると感じています。（品田）

2017 年度

# 仏教章取得者



2017 年 7 月 1 日～2018 年 6 月 30 日 教区順 43 名

教 区	氏 名	団 名	教 区	氏 名	団 名
東京	久松 俊介	葛飾第2団	岡崎	山本 啓介	刈谷第1団
〃	清水 啓太	北第5団	名古屋	佐藤 瑞起	弥富第1団
〃	白木 由香里	文京第3団	〃	氏家 順	半田第3団
〃	白木 敬	文京第3団	〃	神馬 知弘	半田第3団
〃	五十嵐 有沙	文京第3団	〃	家田 航汰	半田第3団
〃	小澤 香穂	板橋第15団	〃	榎原 近衛	半田第3団
〃	石田 混人	板橋第15団	〃	若山 瑞雪	蟹江第1団
〃	黒沼 翔太	柏第1団	〃	石川 敦士	名古屋第67団
〃	西尾 唯右吾	柏第7団	〃	加藤 秋成	名古屋第67団
〃	宮内 大和	柏第7団	〃	山田 韶介	名古屋第67団
福井	岩見 海	福井第3団	〃	河野 桜子	名古屋第67団
新潟	伊藤 和	中条第1団	〃	原 瑛	名古屋第91団
岐阜	斎藤 亘輝	大垣第7団	〃	小笠原 直希	大治第1団
〃	栗山 緑子	大垣第7団	〃	伊藤 桃花	大治第1団
岡崎	清水 康平	岡崎第3団	〃	藤原 太一	津島第3団
〃	林 拓治	岡崎第8団	〃	井上 智貴	津島第3団
	小林 池地	岡崎第10団	長浜	大塚 蒼	犬上第1団
	山口 順菜	西尾第1団	大阪	宮田 和樹	北葛城第7団
	戸田 夏月	西尾第1団	〃	轟 大空光	北葛城第7団
	黒野 空人	西尾第1団	山陽	北垣 妃那	姫路第16団
	久保田 群青	西尾第1団	〃	増田 桃乃	姫路第16団
	竹本 全	西尾第1団			

ベンチャー諸君！3月26日～30日開催の名誉奉仕訓練に参加して  
真宗本廟(東本願寺)で帰敬式を受けましょう!!

# 2018年 事業計画

7月9日	委員会（総会）
8月7日	17NSJ 大谷スカウトのつどい
8月6~9日	17NSJ 信仰奨励パビリオン開設
2月16日~17日	第29回大谷スカウトリーダー研修会
3月26-30日	第59回大谷スカウト名譽奉仕訓練
常任委員会	7月9日・7月10日・9月11日・以降2回開催

## 第29回大谷スカウトリーダー研修会

### ●開催趣旨

み仏に遇い得た歓びを、未来社会を築く子どもたちのために…。

### ●テーマ「未定」

●期間：2019年2月16日(土)～17日(日)

●会場：東本願寺 同朋会館

●受付場所：和敬堂1Fロビー

●講師：乾 文雄氏（大谷中・高校教諭）

●募集人数：40名

●参加費：研修冥加金 10,000円

●運営：指導要員チーム

●申込締切：2019年1月24日(木)

### = 就任の挨拶 =

この度、大谷スカウト連合協議会の事務局を担当させていただくことになりました、谷俊（たに すぐる）と申します。自坊は大垣教区です。

配属早々、第17回日本スカウトジャンボリーに参加させていただき、貴重な経験をさせていただきました。大人、子ども問わず、皆さまが誇りを持って活動される姿や仏さまの教えを聞くこどもたちをまのあたりにして、このような「場」があることを知った驚きと同時に、「場」が続いてきた皆さまの想いの歴史を感じました。

企画調整局 青少年センター  
書記補 谷俊

## 第59回大谷スカウト名譽奉仕訓練

### ●開催趣旨

親鸞聖人のみ教えに学び、ともに大谷スカウトとして自覚と自信を深め、仏教章取得に向けた一歩とする。

●期間：2019年3月26日(火)から

30日(土)まで 4泊5日

●会場：東本願寺 同朋会館

●募集人数：48名 (BS 36名・GS 12名)

●団委員長：経森 等（函館第3団）

●参加資格 ①大谷スカウト登録団に所属する者及び個人登録者

② BSはベンチャー以上

③ GSはレンジャー

●参加費：① 研修冥加金 16,000円

②米2升6合または米代2,300円

※研修会の申込方法などの詳細は、教区委員長が事務局にお問い合わせください。

### 編集後記

今年開催された日本ジャンボリーは17回を数えた。ティーンエイジャーのようだが、実は62歳のおじいさん。運営に携わるスタッフの主軸は熟年齢に達しているくせにすこぶるタフ。今後は、この人たちを越えるのではなく変えるスカウティングなのだろう。

18回は五輪後の2022年東京である。世の中もスカウティングも確実に変わると、70余歳のおじいさんは思う。（大橋）

●発行日：2018年11月20日 ●発行：大谷スカウト連合協議会 <http://tanisco.o.o07.jp/> ☎075-354-3440 FAX075-351-9599

●事務局：〒600-8164 京都市下京区上柳町199 しんらん交流館（真宗教化センター 真宗大谷派青少年センター スカウト係）